



「競う」を大切にする

～ 学校で学び 家庭でしつけ 地域ではぐくむ 朝日東小の子 ～



校長 齊藤 敦史

11月にも関わらず、最高気温が25℃を超える暑い日があったかと思えば、翌週には気温が一ケタまで下がり、今季一番の真冬日となるなど、先月は体調管理の難しい1ヶ月となりました。早いもので、令和6年も残すところあとひと月です。

今学期は、ご家庭の協力も得ながら、修学旅行や朝東っ子音楽会、(持久走大会を改め)シャトルラン大会に各学年の校外学習等多くの行事を実施しました。おかげ様で、どの子にとっても貴重な経験と、心に残る思い出を創ることができました。これもひとえに、保護者の皆様、地域の皆様のご理解・ご支援のおかげと深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

先日、シャトルラン大会を終えた6年生に、感想を伺う機会がありました。その際「やってみてどうだった？」との質問に、「持久走は友だちとの勝負だったけど、シャトルランは完全に『自分との勝負』なので、春の自分に負けないよう、いつもより気合が入りました！」や「持久走と違って、クラスで目標を立てて皆で取り組んだので、いつもよりヤル気が出ました！」等々、好意的な感想が多数を占めました。現代の子どもたち(Z世代?)は、友人と直接競うよりも、目標に向かって友人と協力して取り組む方が、意欲も高まるようでした。

とはいえ、本校では、これからの時代を生きる朝東っ子には、学童期から『友と競う』経験を積むことは必要と考えます。中学・高校へ進学したら、定期試験のたびに嫌でも点数と順位がつくでしょうし、課外活動においても、優勝や金賞、または最下位などの順位もついてくるでしょう。更には、成人して仕事を始めれば、同僚と実績を比較されたり、職位による上下関係のある立場に立たされたりするかもしれません。いつの時代にも競争はありましたが、朝東っ子がこれから生きていく世の中でも、避けては通れない状況と思われれます。であれば、いや、そのような時代だからこそ、子どもたちには、協調できる力やコミュニケーション等「社会性」と共に、ルールに従って「正しく競える力」や、他を尊重しつつ勝って感謝できる心、負けを認めることのできる心、そして「競争」に耐え得る努力や忍耐力などが、求められるのではないのでしょうか。

人として立派な成長を遂げるために必要な「競争」であれば、義務教育段階でその意義やルールを正しく指導し、自分のため、世の中のために「競争」できる朝東っ子を育てていきたいと、改めて感じた一幕でした。※前出の6年生たちは、大きく頷いてくれました。さすが本校の6年生でした！

さて、25日からは冬休みに入ります。期間中はクリスマスや大晦日、お正月等、冬ならではの年中行事が控えております。そのような中、大掃除や初日の出、初詣など、ご家族とともに過ごす「冬休みにしかできない」取組を体験することで、日本の伝統文化にも触れていただければ幸いです。併せて、交通事故や怪我・病気等にも十分に気をつけていただき、楽しい休みをお過ごしください。

令和6年を振り返り、皆様から頂戴しました数多くのご厚情に、職員一同、深く感謝申し上げますとともに、新しき年が皆様にとりまして一層素晴らしい一年となりますことをご祈念申し上げます。そして、来年も「学校で学び 家庭でしつけ 地域ではぐくむ 朝東っ子」の思いを共有していただき、本校教育活動へのご理解・ご支援をどうぞよろしく願います。今年一年、本当にありがとうございました。

皆様、どうぞよいお年をお迎えください。